

門中武
新 417
卷 1

東洞吉益先生著

醫酉事或問

平安書林

弘章堂
斯文堂
博文堂



醫酉事或問自序
海内名醫之病多治者以中
皆如外漢之射者皆其也
そのみりくまにへいし
やほまらおいしやまら
術法へ入すふへいし
かへいしに道とまら



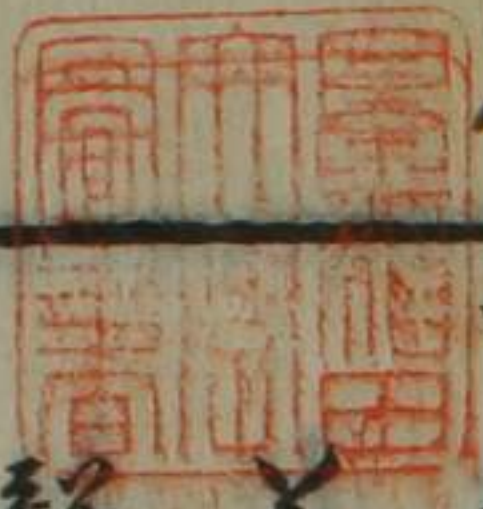
醫酉事或問

安んずればはゆつゝ一と一なる心
道あり邪なるあまふ正道はれハ
戸より心一申す也すも形乃
おれいすもあはくはるる
し何令人と交るるあす
業はつれ人と交るるあす
るあはく戸音道はれあす

人成まをいすの心を相と
もとるるあま茶と向と
まはるるあま病と治すは
一物とまあなり病家の中
乃道とまあなり病家の中
も茶なりはれあま申人乃道
曉人若なりはれあま申人乃道

醫事或問卷上
一或問曰醫家の...

醫事或問卷上



一或問曰醫家の...
昔曰古者醫者三行曰疾醫曰陰陽
醫曰仙家醫是あり固禮小所謂疾醫ハ
病毒の不在と見定て毒よ方と變て
病毒と取去て人諸病疾若く治以扁
鵲仲景のよる所是なり陰陽醫を不
視病之不在唯陰陽五行相生相尅經
絡氣血病証偏人皆徳又人子以て

治者身之病は漢の太倉公也
仙家醫ハ氣を煉成と煉丹と錬一人
を以て造化小部をせんりて
少くは少くはく害も亦とくは
葛洪陶弘景孫思邈等なり其疾醫
之万病唯一毒といふと能く金得
し其方少くは病毒解るといふ事
と心よるる人病治せるといふ法
醫之六腑六腑陰陽五行相生相剋乃

之と書籍ありて是を理とりて病を治
し少くは少くは事なく臆見よるる也
却て主術ありやと見ゆればあれど實
小病を治するより大なる病を治す
病を治する事ありては陶弘景孫
思邈乃其方仙家乃術と云ふは彼陰陽
醫小仙家の方と混とるる是と今其醫
中奥の醫と云ふは是れは扁鵲仲
景之道絶之後一書一人疾醫の事を論

と云ふは、彼は、此と相反の言を、余に示して、
況二子、何年、其危より、嗚呼、悲乎、天下
人民の疾、小者、多、醫者、其絶、之と云ふ
んと云ふ、ハ、醫者、古言、少く考へ、
一或、曰、今、此、醫方、少く、も、病治、一疾
醫、乃、方、少く、も、死、以、何、と、り、て、苦、惡、と、り
た、ん、や

昔曰死生は人の形する事、
なり故、古、今、名、醫、扁、鵲、の、曰、越、人、非

能生死人也、此自當生者、越人能使之
起耳、此、扁、鵲、と、死、る、人、と、生、じ、り、あ、る
ハ、此、い、ん、や、今、の、醫、方、少、く、も、病、治、一、疾
者、を、唯、病、毒、と、去、て、人、乃、疾、苦、と、救、り
事、と、之、術、と、考、へ、ん、だ、る、ハ、此、真、の、醫、者、あり
竟へ、さ、る、ハ、醫、者、に、あ、る、ハ、此、真、の、醫、者、也
と、い、病、ハ、此、藥、を、治、す、ハ、此、方、と、云、ふ
決定、する、ハ、一、度、方、と、處、へ、し、る、ハ、此
病、之、を、治、す、ハ、此、方、と、云、ふ、ハ、此、方、と、云、ふ

く病治を危治するやと志すたるあり
又及人なる醫者へも小能生たる由日く
小方と人日くに加減するなり行とるり
病と治するやと志すんや物るに今方
少く治を危とする変信用とるこし変病
毒乃動す必休息あり毒の静時良よ用
ひする業方と志方と治するやに
思へども志業の功よわくは毒の静する
なり故のこひて察する時志方と用ゆ

是とも治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく
是も治せしめて方と変なり是もく

相煎の業とやいふ一

一或曰曰毒と去て病の治ると又病毒
との治るる辭にて業れ切めあはるはといふ
醫にあはるるれは知りしるなり

昔曰是實事也人誰れも知る事なり

志れとも死るるの病めくはさ志るる一

妙なるか分るる能くするもの世は所

溜傷寒時疫痢病杯とて生死十日のサ日小
ころろく大切の病人あり是と當時世より

と子といふ醫者十人ある十人あり必死

といふたは是は大痛小難病一と時者必死と

こそを免あふ病人を治るるは死とらか

同ふも彼醫者いつん死ぬるもあり生るる

ありとこそ生死の知る能くするは生死を

りころり造化乃因りて人の知る能くする

ふあはるる醫者の主所を疾也と病治

とこそは天斗はるる人を治るるありの也
又世人あはるる時は何程治るるは不復する

同病者一室計何れを病醫者十人
 十人ありて病者一人は生るとも八九十
 日を経るも病者復たぬるものなりといふ
 是の實事也人といふは遠に亦俗人病
 痛に切者あるものなりて醫の言ふ
 と同く然るに主病人といふ日より病
 毒の不在といふ定方とて其病毒とて
 小五年経るる人を三十日せりといふ
 是の復たぬ病者といふより外れりといふ

せんたると又補劑ありて苦ふといふ瘡治
 ては八九十日も経るも復たぬるものなり
 といふ事ありて六十日なり又病名病因
 と痛する醫者ありて切者といふ事あり
 主人毎に同病の毒ふものなり是皆を
 備ふる事ありてありていふ事ありて
 する事ありて病者治るものなり用事あり
 といふ事ありて人病を加減するものなり
 是皆をいふ事ありてありていふ事ありて

醫書或問 卷上

治する事あり是の如くふりて生るは
不若なり治する事と志すは方れか
るふく知く一々醫者の病毒のうめ
中又業の方と志すは病と治と
りあつた醫者の病と治と業あり
譬大將乃士卒と治と業あり
ふは是ありて治と業あり
軍へ成るく一病と治と業あり
ありて用あり自らあり病と治

せざるなり

一或曰先生を用る業の效もなりぬ
身もそのもと業方とくありん
昔曰是病と治と業あり人
ふは是ありて病と治と業あり
病固と治と業あり
業方れ効あり時と業あり
方とくありなり扁鵲の病と治と業あり
病毒とん定け毒と此業あり治と業あり

絶

一或問曰聖人の道も醫たるを漢少く絶せり乎事いん

答曰聖人の道の絶る事ハ孟子荀子などより始る流傳俗より子貢曰夫子之言性與天道不可得而聞也子貢曰性といふは孟子荀子の性善といふ孟子荀子の性悪といふ孟子荀子の性善といふ各言して説は

とは造化の中はくく人よりあつたはるは是を説故に終る聖人乃道絶る也聖人れるを實事とすは身小はてはみといはるるは性といふは性といふは理にして心よゆらの必要なきは孔子も聖人のさし子貢も絶るは性といふは聖人たる絶てより性も陰陽五行を以て理密と云ふは扁鵲のたつた疾医乃る絶るを食ふるは性といふは性といふは

之るなり扁鵲抄をよみて造化の司す
 をいふは病毒れ形状と名定む毒とをり
 痛苦は救ふ事とせん之は毒のあふ衆
 と強ふことと御ふけて毒を治す事
 人を治す事と御ふけて毒を治す事
 身に病ありては之を知らざる事と御ふ
 と云ふ事といふ程の事かとも毒を治す事
 事このなり

一或問曰後世乃醫者ハ風を異濕燥火乃

六氣小傷まゝ痛とけはるといふ疾醫
 を傷るは病なりといふ人
 晉曰風寒暑濕燥火を天の六氣ありて
 萬物生長収養する天の正令なり人を
 天乃人と傷る理あらんや若し是は病は
 天れ私ありいんとなれば天下萬民と
 しくは六氣の因ふは是れ病ありぬ人
 をあけまゝも傷る事ありぬとあり
 なんを云ふは是とわらば病なる事あり

醫書或問
 卷上

んや又又天乃爵とるなりといひて業を
治せん能く考へし余古昔名醫の法
小随ひ瘡治して考ふに六氣の病と
く知ぬ治する業方解し唯扁鵲仲景
乃るく痛毒に方と云ふは汗吐下和して
百病治と被六業小傷やと記といふ人も
毒と云ふは毒風を小傷と云ふも傷を
さす小く知ぬし

一或曰曰風小わさつて風は痛と生る食物

小わさつて後痛し何くく之食物
吐しは腹痛を是とて是れは食小を
外來乃邪業小傷れ物といふは
昔曰為人固く風小わされを傷るも
物を傷るまぬも何れ又固物と食して
是食傷る人をもありやぬ人もあり是
皆傷る向にありは是れ氣を感して後
中れ毒物なりし毒と云ふは風
傷るも或は食小傷れ中と記といふ人

何程風ぬわたりても何と食うてを傷
 何とやちたきまの形り又食物ふとま
 煩わし嫌ふ物に後申れ毒ふわらふ由人
 嬌ふたるとま毒成るるれに嫌ひし物を
 と記ふたり食とれわたりて後痛とる
 やし小物もわらうとあたり是とて風
 も食を傷る物よけと後申れ毒動て
 氣成るるま志ひるとりまをと知へし
 一或曰曰内証も外証家も及ふ腫の積成

徳疾醫と唯一毒とてふて又腫乃説と
 取らるるやいん

昔曰腫腑の中周禮管子抄ぬわれとを
 後世ふし又腫六腑れ事にあつて後世
 といふ又孫六腑の中ハ漢ふりて治陽醫
 盛ふたりて後の説なり内証抄ぬ心積
 腫核行積腎積等れ事と詳ふ傳しけ
 痛をけ業を治とるやといふと理を志
 切者も同中とて今用中々に業効を

一 後中好半の外よりハ及て後して皆推
 帯形の中よハ大勝の税をさうさるあり
 一 或曰生死と知れしつるを強弱を為
 用い死しを命の時をさけといふ者は
 といえ

善曰生死と云ふぬといふ事ハ病人畏る
 苦なり志れしを媚使といふけさるをな
 一 若くはけさるハ畏れぬといふ事とも
 二 又と云ふ事なれども生死を元より

志しぬ事也云々ぬといふなり聖人も死
 生命ありとのあはしく人れ志し事にあ
 らんを志し事ぬ知んとする也
 療治不迷ふ事あり凡人間乃大切するハ
 命なり之生死の二つは生け命は生ハ海
 へ死しなり妙と云ふ人ハ事変とれ死
 事より知れなれ人なりと云ふ人知る
 事ハ生ハ生け命は生ハ海
 乃病人より事なり死てはと云ふ事ある

時と心算惑^{くわく}れして病^{びやう}死^しして唯^{ただ}死^し也
いふ目^めくれ^く療^{りやう}治^ちと施^しりあ^ある^るを^を憫^みれ^れ
する事^{こと}信^{しん}人^{にん}も^も智^ちる^るを^を生^{せい}死^しと^と知^ちれ^れ
いふ^いも^も實^{じつ}不^ふ生^{せい}死^しと^と知^ちる^るは^は有^あり
醫^い者^{しや}と^と病^{びやう}苦^く証^{しやう}解^{かい}ふ^ふを^を生^{せい}死^しと^と知^ちれ^れ
天^{てん}乃^な司^し所^{しよ}と^と治^ち定^{てい}と^とれ^れの^の迷^ま不^ふ事^じなり
と^と終^{しゆう}也^也病^{びやう}醫^いの^の必^{ひつ}死^しと^とま^まあ^ある^る病^{びやう}人^{にん}
の^の全^{ぜん}生^{せい}と^とる^るや^やを^を知^ちる^るは^は生^{せい}死^しと^と知^ちれ^れ
とい^いふ^ふや^や醫^い者^{しや}れ^れ要^{えい}を^をた^たり^り生^{せい}死^しと^と知^ちる^る

ゆ^ゆい^いふ^ふや^や必^{ひつ}不^ふ生^{せい}死^しと^と知^ちれ^れ
心^{しん}不^ふ生^{せい}死^しと^と知^ちれ^れと^とい^いふ^ふか^かく^く古^こ者^{しや}扁^{へん}
鵲^{じやく}過^か歸^き太^{たい}子^し暴^{ぼう}蹙^{しやく}而^に死^しと^とる^るに^に扁^{へん}鵲^{じやく}療^{りやう}
治^ちして^{して}蘇^そり^り故^こ心^{しん}天^{てん}下^げれ^れ人^{にん}祿^{りやく}美^みく^く
扁^{へん}鵲^{じやく}為^な能^{のう}生^{せい}死^し人^{にん}や^やい^いふ^ふと^とも^も扁^{へん}鵲^{じやく}と^と
交^{かう}は^はして^{して}越^{えつ}人^{にん}非^ひ能^{のう}生^{せい}死^し人^{にん}也^也此^{こゝ}自^{みづか}當^{たう}生^{せい}
者^{しや}越^{えつ}人^{にん}能^{のう}使^し之^し起^き身^{しん}と^とい^いふ^ふは^は生^{せい}死^し
を^を醫^い者^{しや}れ^れあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふと^と知^ちれ^れる^る余^あ余^あ余^あと^と
京^{きやう}師^し祇^ぎ園^{えん}所^{しよ}傳^{でん}授^{じゆ}を^を長^{ちやう}と^とい^いふ^ふと^と療^{りやう}治^ち

あつらひしやをこし病人吐瀉の症を世醫
治しかつやいふ則余とも病くはくこしと診
小心下痞穀水瀉嘔逆くてもふ絶んとい
余曰け方れ瘡治を世とあふ思くはらり具
ある今の醫乃あやううけふこふ業を
け方ふ用ひ病よ的申する時をあふ瞑眩と
ふらりこし瞑眩も思きてい病治やぬめ也
こしいふれも病あのか令得くてもとこ乃
生姜瀉心湯と三貼用ひたれといせり時分

あふ吐瀉して病人氣逆とこふよりて家内
あふ強執く醫と集て診てけれは皆死
ころこしこしあつらひしやをこし病人吐瀉の症を世醫
治しかつやいふ則余とも病くはくこしと診
小心下痞穀水瀉嘔逆くてもふ絶んとい
余曰け方れ瘡治を世とあふ思くはらり具
ある今の醫乃あやううけふこふ業を
け方ふ用ひ病よ的申する時をあふ瞑眩と
ふらりこし瞑眩も思きてい病治やぬめ也
こしいふれも病あのか令得くてもとこ乃
生姜瀉心湯と三貼用ひたれといせり時分

100

仰りたるに夜九つ何れも病人を扱はせりたるに
之目候にしき一類かんざく春属集居るに何れを
と仰ふ一類の者もおそろきと仰ふ中へ今日
七つ時より只今まで呼吸色脈も絶え
て醫者と集りてんを治れども死人のみ業ありと
して仰りたるは是れ也等々あり候る
といふは病人を扱はせりし思ひ候れども
大不潔しと仰ふ候一白病者もなく寝と
るやうに是れと仰ふもや氣力をよくあせ

たる程も皆く仰ふ一と仰ひたれども一類乃
ちのい候しを扱ひしをんをたる近所此
醫とま候しを珍しん素と仰ひしに縁を治るを
く候も病なりといふ候りたる也いふ
病人を扱はせりしと仰ふ一と仰ひたれども一類
乃ちのい候りたるを扱はせりしを候たりと
いふも茶漬ちやく三候と仰ひ候して病を治
るべくたまふなり多年の病と云はれり人
知年より合也と仰ふ人白粥と云はれり

らまはすあまりにまてても管るれぬ地とく
む世よあまるとも人食ふやあまのたふふ
右の病治して後何と食ふてもあまの事ふ
を七十までも壯健く養ふるに病人を
病細毒とん定ま毒に方とほけて療治を
るのみさふまらり死するもせむるもさふ
てまてあまらるにわおぢくにならぬは
死なぬ若くはせむるもあまのあり候ふ
病人と知りてもせむるともぬくもゆ

思ふ人多く物れもせ死と知るもよ
知るぬくも療治は効のあま事考ふへ
一若くも或人金と謀らるるを足下
平日生死とあまぬといふゆへ世とれ人太
ふ思ふに事といひて療治とあま
あつたのむ人も多く人をたてる事も
多うんといふもあまふと考ふるに
と世は顯んて治切ぬといふあまの
しはあまらぬといふもあまの生死とぬ

夕なりを人せふ好むとてをくも
といふれを長共の諫らる事也
禱返も
なりてかゝる事あり人の疾苦を救ふ
吾道と未世も信人々人好むを
けよあん
ふ身来の志を人々醫術の
と餘死よふも道とは是へ
顔淵曰夫子之道至大故天下莫能容
雖然夫子推而行之不容何病不容然
後見君子夫道之不修也是吾醜也夫

道既已大修而不用是有國者之醜也
不容何病不容然後見君子と醫を亦
然り二子事徳る道と記くはふるれ
とを人々死ふもとけ道世も行まは
吾生涯のなかをたり折角徳ら行ふれ
とをわくれあくる乃ちたれいひ死よ
死つと禱したれが彼老人懐徳してこれ
とあつたれと道よれは人の好む
せんや吾とる不あは生れり

たつたの醫術とゆふ事ありといふるあり
あんそいふはふとんやえけふ河
さるりの病の治るとして知

一或曰太倉公と古昔の名醫なりて史記
少と扁鵲とちりて稱せり其太倉公と
考生死乃ち成いふを考ふ先生生死
かつて治といふいふん

昔曰太倉公と陰陽醫なり疾醫小あり
さふりとの首章めでるる扁鵲を

疾醫なりと云道後漢の張仲景も傳り
仲景没して後絶く傳る者なく今も醫
者をたつてを太倉公と流して二ふ年
去の一人も疾醫なりと云ふものばし
考生死と傳るれも考ふ生死と云ふる
他授ふは史記太倉公り傳ふと齊王問
太倉公診病決死生能全無失乎臣意
太倉公名也對曰意治病人必先切其脈乃治
之敗逆者不可治其順者乃治之心不

精脈所期外生視可治時時失之臣意
不能全也也やわを之能知るといふ太倉
公の論しては是は又生死と云ふぬ
といふ余も之を云ふに似たる事あり
七八と遠くあり然るに知るといふ太倉云
ふは死生の造化の目少く人間乃論
し知るといふ程なりと云ふ死と云ふといふ太
倉云も實と云ふ事ありといふ云葉

少くありあり

一或曰古方と信する人を後世の醫者と
用ひる後世の醫者と信する人を古
方と信する用ひる又古方を瘡治と云
ては後世をぬ人を疑ふ事あり
いん

昔曰瞑眩をれは云ふ事なり
と云ふの使然りと知る人を貴く
用ひる毒をる事なり根用する人終り

全快し暝眩せざる病乃治せぬといふ事
を能知有りそれ中人後世此業と用ひ
るに非ざる一又後世の醫を信じて
ふ人乃目めは古方の療治甚あり然や
ふん中の中人用ひぬる有り又古方の
療治法更しく使氣をぬ人を極恐ると
いふるを療治ふ難りて成遂する人なき
是ハいふて用ひざる人よりあしく思ふ苦
あり業功のあふ時を必暝眩しとてふ死

中人と云ふは強よ若しやあを志すれども業
めく為する事中人二時斗とれは藥氣を
て差れさあする事くく流るなりなり
大なる病毒減するもの有りは極子と云ふは
暝眩しとれ時發て化す醫者と難く不備
補劑と目めは時乃る不使氣とする事とて
よあは療治ふく死すると思ける不補業
と思ふるを命と捨てる事にはかりし蓋古方
を思ふより氣くく有りは甚く是補業

みそ治しざるふわしんかれ業氣つこく
使字あくるなりそとて古方と信せん又
不用いせんよりハ甚恐るるやとあるん
一或曰後世の醫ハ何れハ病毒をくハまぬ
ものなりといふ由家あてハあしくをまとい
ていん

昔曰病毒を生れく後生しこるもの由人
毒業ふく取去るよりこれなりこを能授ハ
大病と瘡治しを使字ハ後あいかう治

又やうなる業をて氣血補し體と業ふ
といふ醫者ハ大毒の業と恐て用ざる故
毒れ去るる程ふし然もも彼瘡治しこく
病の治する事わりそハ實ハ治しこく
わしん自然と毒乃静して使字あくるあり
こを能授ふ又やうかあるもの毒しこく
をいふぬものいふ形り瘡醫ハよく去
るやれ人まて登るもの
一或曰老人小兒又をこ瘡とる病人

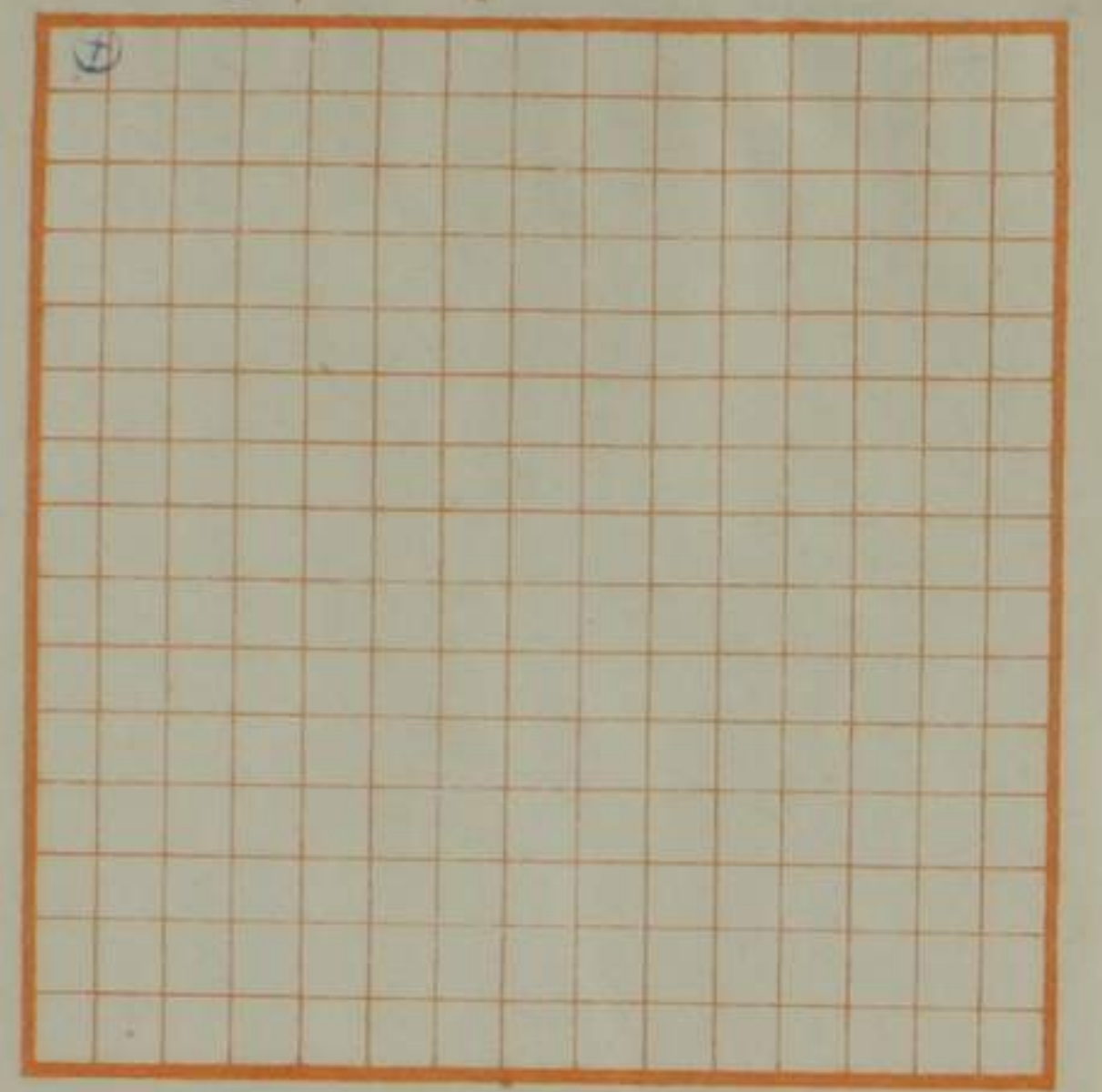
業ははをけく用ひて一珠ふ老人小児は
 変じざる半れをやれあなりまゝなる病毒盛
 ぢる時へ病毒小場より変じざる半ありせも
 由人用る多死場所とまぬりてへ又用ひゆて
 必恐ぶつゝんをく人今も死すやうにん有る病
 人少くもこゝ毒小微じる毒業と用ひれは亦
 汗一或を吐く或はりて受の受んゝるあそ
 ぶる病よりく治じざるのなり彼傷を痛く
 強人ツヨキヒト一錢ツカレタル比ツカレタル羸人ヒト半錢ツカレタル比ツカレタルとつゝは後人

乃捲入マキなり毒なるをく
 一或問曰彼大毒の業と用ひ亦ふ死じれ
 ものありやれあそも業少て死くはあ
 あゝゝゝゝ
 答曰業あそく死したるにあつた死ぬるに
 時を少て死なざるこゝのなりこゝなる
 死ぬるもの業毒小あつたは何とせざるの
 かり又業毒よあつたり脳も吐深じる程れ
 勢イキつたは後中れ毒盛なる中人なり

夫一人を志望するをいひいうる英雄豪傑
 傑少くも知るるすい地不ほろあ一又一文
 不知の人少くもこ極子とよく志りたるや
 をそ兼^兼らたすれ一吾輩の毒業と用
 ゆるも亦然りけ毒業よそ此病の治すに
 といふをと知あるなかと恐るるや形一何
 程乃大毒と用ひくも此病治して知よ
 害ななりなり

醫事或問卷上終

4年 月



夫々ぬ人を志望するをいひいふる英雄豪
 傑少くも知るるすの地不はうあ一又一文
 不知の人少くもこ極子とよく志りたるや
 をそ兼^中るたすれ一吾家の毒業と用
 ゆるも亦然りけ毒業よそ此病の治す能
 といふを^中と知るるなかと恐るるす形一何
 程乃大毒と用ひくも此病治して知よ
 害ななりなり

醫事或問卷上終

